

平成22年度 第7回 (10月) 理事会議事録

- 日 時 平成22年10月14日(木) 午後6時30分～8時29分
- 会 場 社団法人大阪府臨床検査技師会事務所
- 出席者 今井、運天、竹浦、吉本、高田、大垣、清水、
荒木、田畑、井戸田、出野、山田、宮野、酒井、
栗本、山西、杉山、増田、栗本監事、
山中監事、事務(仲野)
- 欠席者 なし
- 議 長 今井

【 討 議 内 容 】

I. 行動報告 (9月分)

- 9月1日 大放技・大臨技合同フォーラム打ち合わせ
会議
今井、清水
- 2日 大臨技精度保証施設認証委員会
今井
- 3日 内視鏡部会
出野、田畑
- 4日 日臨技免疫血清研修会
今井、山西
- 5日 日臨技免疫血清研修会
山西
- 9日 H22年度救急医療功労者表彰式典・救急
医療従事者研修会
今井
- 9日 理事会
今井、運天、竹浦、吉本、高田、清水、
荒木、田畑、井戸田、出野、山田、
宮野、酒井、栗本、山西、杉山、増田、
栗本監事
- 12日 吹田市健康展
栗本
- 14日 学術部会
高田、宮野、山西
- 15日 総務・会計部会
運天、吉本、荒木、山田、杉山
- 16日 情報組織部会
運天、井戸田、山西、杉山
- 16日 地区事業部会
田畑、出野、栗本
- 16日 近臨技会長会議・近臨技関連学会同時開催
協議会
今井
- 18日 第3回学術部講演会
高田、宮野、山西
- 18日 豊中市健康展
清水
- 19日 豊中市健康展
清水
- 21日 渉外部会
清水
- 21日 大阪府医師協同組合
清水
- 22日 常務理事会
今井、運天、竹浦、吉本、高田、荒木
- 25日 日臨技認定一般検査技師精度 試験WG
委員会
今井
- 26日 日臨技認定一般検査技師精度 試験WG
委員会
今井
- 27日 中央支部会
田畑、栗本
- 29日 総合管理部門打ち合わせ
運天、井戸田

II. 経過報告

1. 日臨技

- 第50回近畿医学検査学会式典に米坂副会長を派遣す
る。
- 9月1日にQFT関係団体打ち合わせ会を開催した。
- 9月25日マレーシアで開催されるAAMLS理事会は
欠席とする。
- 常務会は高田会長が東京に不在のため、才藤会長代行
が主幹となる。

2. 近臨技

9月18日に近臨技会長会議が開催された。

① 会員管理：

日臨技JAMTISと連携した地臨技独自の会員管理シ
ステムの導入

② 生涯教育の履修点数制度：

近畿圏内相互の会員交流

③ 賠償責任保険に関する事項：

地臨技独自の保険の構築

④ 近畿学会のあり方について：

同時開催のあり方と3団体協議会の存続

来年度(滋賀県)は、同時開催を休止とする。

- 9月18日近畿臨床検査関連学会同時開催協議会が開
催された。

3. 事務局

〈総務部〉

9月15日に部会を開催した。

- 大臨技会員名簿の作成について検討および校正を行っ
た。

- 新制度法人への対応について検討した。

- 日臨技新体制への対応について検討した。

- 大臨技ニュース9月号を発行した。

- 大臨技ホームページを更新した。

〈会計部〉

9月15日に部会を開催した。

- 8月度収支決算書を作成した。

- 日臨技へ8月分会費の送金を行った。

〈渉外部〉

9月21日に部会を開催した。

- 第3回合同フォーラム委員会(10月5日)の準備を行っ
た。

- 第1回乳がん健診フォーラムの準備を行った。

- 手話講習会および講演会について討議を行った。

- 第6回府民健康フォーラムの準備を行った。

4. 事業局

〈情報組織部〉

9月16日に部会を開催した。

- 日臨技総合管理部門研修会(10月23・24日)の打
ち合わせを行った。

- アンケート調査について検討した。

- 2月19日開催予定の技師長会について検討した。

〈地区事業部〉

9月16日に部会を開催した。

- 会員交流会に関して最終の打ち合わせを行った。参加
申込み者が少ないため呼びかけを行う。

- 10月2日(土)13:30集合、堺市とれとれ市バーベ
キューコーナーにて開催。参加者は27名で、漁船の
乗船も行われ大変好評であった。

- 9月11・12日に吹田市健康展が開催された。今後の
健康展への参加の方向性を検討した。

- 9月27日に中央支部自由集會が開催される。後期
自由集會については、11月27日(土)成人病セン
ター6階で15:00～18:00にて開催。テーマは「緊
急検査時の感染症対策について」とする。

〈学術部〉

9月14日に部会を開催した。

- 第3回学術部講演会について最終打ち合わせを行った。参加者は142名であった。
- 平成23年度よりの会費納入等に関して変更点を報告した。

Ⅲ.他、報告

1.日臨技施設認証について（竹浦副会長）

- 〔パイロット認証〕
認証対象：都道府県基幹施設
都道府県申請受付期間
平成22年10月12日～10月22日
都道府県審査期間
平成22年10月23日～11月10日
日臨技申請受付期間
平成22年11月11日～11月19日
〔一般施設認証〕
認証対象：都道府県施設
都道府県申請受付期間
平成22年12月1日～12月14日
都道府県審査期間
平成22年12月15日～12月31日
日臨技申請受付期間
平成23年1月5日～1月11日
- 一般施設認証に伴う費用は50,000円とし、認証書有効期間は2年間、更新は原則2年毎とする。
- 大臨技の精度保証施設認証委員会は、10月27日の常務理事会の前に行う予定である。
- 施設認証申請用紙は、日臨技ホームページよりダウンロード出来る。

2.大阪府地域医療推進協議会について（今井会長）

- 10月30日（土）16時30分より、ザ・リッツ・カールトン大阪にて開催される。
- 今井会長、運天副会長、吉本常務理事、高田常務理事、荒木理事が出席の予定である。
- 大阪府および大阪市の平成23年度予算編成に対し「府民健康フォーラム」への助成を要望することとした。

3.大臨技会費納入方法については、日臨技事務局に集金委託を希望しない旨の報告をした。

4.第1回乳がん健診フォーラム

- 平成22年10月16日（土）14時～17時、大阪府医師協同組合会館で開催される。
- 広報として、朝日新聞等に掲載、他取材依頼を要請している。
- 大阪府対がん協会資料の配布、マグネットと啓発パンフレットの配布、まいど難波献血ルームにてチラシの配布等を行う。

5.第6回府民健康フォーラム

- 平成22年10月30日（土）14時～17時、大阪YMCA国際文化センターで開催される。
- 薬物撲滅キャンペーンも同時開催される。
- 開会前の相談コーナーは、杉山理事が担当する。
- 閉会の挨拶は大垣理事が担当する。
- 大阪府地域医療推進協議会と同日開催となったため、終了後の懇親会は中止となった。

6.平成22年度大臨技・大放技合同フォーラム

- 平成23年1月15日（土）14時～17時、大阪府医師協同組合会館で開催される。
- 特別講演は、大阪府立泉州救命救急センターの松岡哲也所長に「消防法改正による今日の救急医療体制～泉州医療圏の試みと実績～」をテーマとした講演をお願いする。
- レジメを150部作成するにあたり、講師に抄録を依頼する。
- 大阪府（大放技担当）・大阪市（大臨技担当）に後援依頼を行う。

- 広報として、地下鉄の沿線案内・朝日新聞掲載・教育機関等に掲示を行う。

7.その他

- 10月18・19日に豊中市健康展が開催される。

Ⅳ.議 題

1.公益・一般社団法人の選択と大臨技定款について（運天副会長）

- 今までの大阪府法務課の考えとして、現在の学術系事業を審査する限り、以下の点をクリアにする説明が求められる。
- ①定款上の「会員の技術研鑽」に関する事業を、医療従事者一般にまで対象を拡大したものであれば、事業の内容によっては、公益性が肯定される場合がある。
- ②事業実績から会員が実質的な参加者となるのであれば、共益事業とみなされる。府民目線で見た公益事業という「外形的公益性」が求められる。
- ③「不特定多数」を対象と標榜していても、抜本的な改善措置を高めず、現況の事業展開の継続は、共益とみなされる。
- 公益法人協会の担当弁護士に相談した確認事項
- ①「不特定多数の利益」の概念として、「補定 横断的注記」に、受益の機会が特定多数の者に限定されている場合でも、「特定の資格等を有する者の大半で構成される法人における講習による人材の育成が、学術の振興に直接貢献すると考えられる場合、受講者が社員（会員）に限定されていても公益目的事業とし得る」とある。それを証明する説明、対象枠を医療従事者に広げた事業や事業比率の見直しを行えば、公益申請の選択もある。
- ②事業申告は予算で行うので、次年度の予算編成が重要となる。
- ③申請後の改善申告の猶予期間の確認を行ったが、猶予はあるとの回答を得た。
- 行政の方向としても、民間の公益増進に寄与する団体には公益申請を推奨している。広島県の放射線技師会の公益取得もあり、再度、公益申請の方向で検討してはとの見解となる。
- 大臨技の方向性の意見として
- ①学術部の事業予算を縮小するのは、会員にとって不利益になるのではとの懸念がある。
- ②来年度の事業内容を、予防医学を取り入れた研修会や、他の職能団体の参加を見込んだ研修会を増やした事業の展開を行う。
- ③臨床の場での過去の実績や、一般への公益性のアピールを積極的に行う。
- ④申請期限までは公益申請を目指し、その後、一般申請も視野に入れた事業の見直しを行う。
- 次回理事会まで継続審議とする。

2.臨床検査技師賠償責任保険について（運天副会長）

- 日臨技臨床検査技師賠償責任保険
保険会社は東京海上日動火災保険、代理店は（株）メディックプランニングオフィス、保険料は2,780円である。
- 学生対象損害賠償保険ウィル
16万人加入で保険料5,000円である。
- 大臨技臨床検査技師賠償責任保険
- ①保険会社は損保ジャパン、代理店はノバリ株式会社である。
- ②地区臨床衛生検査技師会が契約者となり、会員は任意加入とする。
- ③日臨技臨床検査技師賠償責任保険と同等の補償内容とする。（内視鏡検査業務を含む）
- ④保険期間は平成23年4月1日から平成24年4月1日の1年間とし、保険料は2,950円とする。
- ⑤希望者には、平成23年1月1日から平成23年4月1日の3ヶ月間の保証を継続できる。
- 審議の結果、「大臨技臨床検査技師賠償責任保険」が承認された。

3. 会員管理システムについて（今井会長）

- 検案中である日臨技の会員管理システム「JAMTIS」と連携のとれる都道府県独自の会員管理システムの導入費用は、近臨技7府県より拠出する予定だが、分担の割合は未定である。
- 日臨技「JAMTIS」の動向がつかめないので、日臨技に対し情報の提供をお願いしている。
- 日臨技会報「JAMT10月号」によると、日臨技の定款が改正される（来年秋頃を予定）までは現定款が適用され、日臨技会員は地臨技に所属しなければならない。それにより日臨技のみの会員は認められない。